

みつくら

令和 2年12月15日 第328号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

大瀬川地区文化祭 特集

大瀬川地区文化祭は、大瀬川活性化会議（大瀬川地区文化祭実行委員会）の主催で11月7日と8日の2日間、大瀬川振興センターで開かれた。例年の文化祭では、舞台発表や親子卓球大会、餅まきなどを行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して展示部門のみの開催となった。今号では、展示部門を特集して皆さんにお伝えしたい。

達筆な書道や硬筆も展示

現在、大瀬川の書道と言えば熊谷美奈子さんと熊谷静香さんが著名である。熊谷美奈子さんは「適（あっぱれ）」と題した毛筆作品を、熊谷静香さんは「仲雄王」の「天籟相和幽洞谷・・・」を同じく毛筆の作品であった。また熊谷静香さんは他に硬筆で「星めぐりの歌」など2作品も出品していた。「このように上手にペン字が書けたなら・・・」とつくづく思ったひと時であった。

他に、いたがきみつ子さん、いたがきはるとさんのペン習字作品も展示された。

写真部門は9人から35点

年1回の作品発表の場でもある文化祭には、写真クラブが中心になり、35の展覧があった。美しい風景や日常の一コマを切り取ったもの、旅先での思い出など多数が展示され、中には有名なイタリアのピサの斜塔やスペインのサグラダファミリアの写真もあった。

出品者は板垣公さん、熊谷善志さん、菅原新一郎さん、菅原得之さん、菅原昇さん、菅原房子さん、菅原靖夫さん、熊谷敏江さん。板垣弘清さんは3点出展され、その中の「黒森山」は大瀬川で一番太い黒森大杉（太さ4、67m高さ31、5m）を訪れた時の写真であった。当時を思い出し、しばし懐かしさに浸った。

壁飾りのスワッグ作品を展示

スワッグとは、いろいろな花や葉を束ねて壁に掛ける飾りのことで、素朴な雰囲気を出し出すインテリアとのこと。今回の展示作品は薔薇、ユウカリなど10種類を使い、花束を逆さにしたようなデザインの壁飾りであった。この作品は、大瀬川振興センター主催の女性学級で11月5日に作り方を学んだもので、色とりどりの花の束が会場廊下の壁に展示された。出品者は板垣江利子さん、板垣幸子さん、板垣たか子さん、熊谷浪子さん、熊谷ひとみさん、熊谷りり子さん、菅原慶子さん、菅原房子さん、菅原みさ子さん、高橋厚子さん、高橋あや子さん、畠山孝子さん、畠山久子さん、畠山美代子さん、藤原篤子さん、山形圭子さん、熊谷敏江さんであった。

ワイシャツ割烹着なども出展

ワイシャツをリフォームした割烹着も5点展示された。ワイシャツの襟を外して襟ぐりを加工し、更に割烹着に必要なポケットを付けるなど見ていて楽しくなる作品であった。他の衣類は（別記を除く）10点であった。

来年の干支である「丑」も12頭

大瀬川手芸クラブ主催の干支作り教室の作品、軽量粘土で作った丑（牛）12頭も出品。草（緑のフェルト）の上で牧柵に囲まれた牛たちが放牧された演出には感心させられた。

千鳥苑からも多くの作品

今回の文化祭にも千鳥苑から多くの作品が出品された。塗り絵が12点、折り紙が31点、パッチワークが2点など合わせて60点。出品者は名前があるだけでも阿蘇あき子さん、伊藤きよ子さん、押切丑太郎さん、鎌田キヨさん、菊池タエさん、菊池睦子さん、中居竹太郎さん、藤村アイ子さん、山本かつ子さん達であった。

ブルリの杜からも出品

利用者が増えているブルリの杜からは、共同作品の「雨ニモマケズ」の大作が目をつけた。毛氈（もうせん）糸の文字が、フェルトの布地に描かれて見事であった。他に熊谷有真さんの新聞紙のカラー（色）部分を上手く利用して作った「ちぎり絵」の魚や、熊本広太さんの「フェルトパンチャー（布地に魚や果物を糸で描いたもの）」、千葉舞さんの果物やコップを表現した切り絵などであった。

綺麗に輝いていた七宝焼きは17点

多くの人が足を止めていた七宝焼きの作品は、どれも売り物のような出来映えで素晴らしかった。出品者は板垣眞喜子さん、細川文子さん、板垣福子さん、菅原房子さん、板垣江利子さん、板垣幸子さん、玉山静江さん、畠山三枝子さん、熊谷浪子さん、菅原秀子さん、高橋厚子さん、熊谷美奈子さん、菅原めぐみさん、菅原文子さん、高橋知恵子さん、熊谷敏江さん。

パッチワークや壁飾りも10点

パッチワーク（はめ込み作品）は板垣美智子さんが2点、阿部寿男（千鳥苑）さんが2点、板垣久美さんが2点、他に板垣久美さんは壁飾り4点も飾られていた。

一般者の折り紙は43点

施設以外の一般者からの折り紙作品は、菅原祐子さんの8点以外は出品者の名前が分からないが、合わせて43点であった。

法被（はっぴ）は2点

菅原禮子さんは法被2点を出品された。この法被は、色柄を上手に組み合わせたもので手間暇がかかったと思われる作品であった。指先が器用な姿が目につかんだひと時であった。

押し絵は10点

厚紙を花鳥・人物などの形に切り抜き、綿をのせて美しい布で包み、物に貼り合わせた細工した押し絵は合わせて10点が出品された。誰が作ったのかは分からなかったが、どれも見事な作品であった。

園児からは図画11点

石鳥谷保育園に通う園児からは微笑ましい図画が11点展示された。描いた園児は、くまがいこさん、くまがいひなたさん、くまがいひまりさん、くまがいみずきさん、すがわらあらたさん、すがわらときおさん、すがわらまゆさん、すがわらみゆさん、つじむらあいさん、はたけやまたくまさん、ふくしまうたさんであった。

小学生からも多くの作品が出品

大瀬川の小学生、少年消防クラブから多くの図画とポスター36点が展示された。内容は省かせて戴くが、出品者は板垣蒼幸さん、板垣維吹さん、板垣陽翔さん、板垣美月さん、板垣龍さん、熊谷朋久さん、熊谷音々さん、菅原仁さん、菅原颯人さん、菅原氷織さん、菅原陸さん、菅原瑠香さん、菅原瑠生さん、高橋咲季さん、玉山太一さん、菅原煌太さん、玉山優奈さん、辻村大雅さん、畠山ひなたさん、畠山真莉華さん、畠山港人さんの21人であった。

中学生からは図案、折り紙、紙粘土作品

中学生の菅原大夢さん、板垣春花さん、板垣涼花さん、熊谷光哉さん、菅原英美さん、高橋佳汰さん、高橋瑞希さんの7人から図案、折り紙などは板垣春花さんと菅原大夢さん、木工作品は菅原英海さんと高橋佳汰さんからの出品。

巾着袋と手提げ袋、手袋も出品

板垣久美さんは巾着袋と手提げ袋を10点、手編みの手袋は板垣たか子さんが2点、菅原サツ子さんが3点出品した。

みつくら

令和 2年12月15日 第328号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

お知らせ

みつくらお知らせ版12月号にも記載しているが、「新型コロナウイルス感染拡大による市関連施設の利用制限ガイドライン」が規定レベル3に移行されたため、振興センターおよび改善センターの利用制限が12月末まで変更となっている。詳しくは、お知らせ版か、職員にお訪ね下さい。
 また、例年1月に行なわれている「新春の集い」と「新年交賀会」については中止となる見通し。

大瀬川の居住と家号の企画展も開催

今年度の文化祭にも、恒例になっている「大瀬川に関する企画展」を併せて開催した。テーマは「大瀬川の居住と家号」で10枚の展示パネルを使い展示している。
 今回の企画展を立案したきっかけは、「大瀬川には、4500年前の縄文中期には人が住んでいた（田屋遺跡や大地渡遺跡）が、もしかしたら、それ以前から人が居住していたかも知れない」と考え始めたからであった。しかし、大瀬川の文献に残っている最古の記録は、今から1100年前の承平7年（西暦937）の田中家であった。もう一つのきっかけは、現在大瀬川の各戸にある文献や言い伝えを、一つにまとめて記録に残したいとの想いも重なったのも理由であった。令和2年現在の大瀬川戸数は181戸（千鳥苑を1戸とみなし）であるが、企画展に取り上げたのは先述の田中家から、令和元年から大瀬川に住んでいる小笠原家（小笠原俊幸さん宅）までの289戸（残りの108戸は既に廃絶したり、大瀬川から移転した分も含む）を紹介している。
 資料の収集は、11年間にわたって66回も開いている大瀬川歴史探訪講座からの引用が最も多く、他に大瀬川家族写真集、各戸で保管している古文書（11戸）、小屋敷絵図、渡里絵図、上野絵図、大瀬川区長記録、石鳥谷町史、いしどりや歴史と民族誌、大瀬川公葬地墓碑、光林寺墓碑、石沢墓碑、鳥谷寺墓碑などから採録した。内容については、どちらが正しいのか分からないので、矛盾しているものもそのまま両方表記している。

晩秋の中グランドゴルフと芋の子会

大瀬川中央長寿会（菅原得之会長）では、11月11日に金矢温泉でグランドゴルフ大会と芋の子会を26名が参加して行なわれた。恒例になっている芋の子会をコロナ禍でも実施するか役員会で慎重に検討を行い、コロナ対策を踏まえた花巻市の「温泉宿泊施設等利用促進事業」を利用した。
 到着後、それぞれに消毒とマスクを着用してグランドゴルフをする人と休憩する人に分かれた。枯れ葉の舞うコースで14名を3チームにして8ホールを2ラウンド行った。休憩者用に輪投げも用意していたが、久しぶりの会合で話に夢中になり、あっと言う間に芋の子会の時間となった。会場はコロナ対策のため、丸テーブルで間隔を開けての会食となった。
 その後グランドゴルフの表彰となり、1位が熊谷レイ子さんと畠山勝榮さん、2位は板垣幸夫さんと3位が板垣福子さんと夫婦での入賞となった。参加者はお腹を一杯にしてお風呂に入りお喋りでストレスを発散して帰途に就いた。

運動公園に歓声が響いた軽スポーツ大会

例年、大瀬川地区文化祭に合わせて親子卓球とステージ発表をしていたがコロナ禍ため変更となり、大瀬川体育協会（熊谷俊哉会長）主催の軽スポーツ大会が11月8日に行われ地区民が多く参加した。
 体協が各自治公民館・各老人クラブ・子供育成会・石中PTAに呼びかけて広い世代が参加した。競技種目は屋外でグランドゴルフが行われ、体育館内ではソフトバレーと新たにバスケットピンポンが加わり各世代の人達で競技した。今回は、体温測定や消毒、マスク着用で勝敗もつけない競技となったが、久しぶりにあっちこっち歓声が上がっていた。
 また、銀杏の木の下では世代間交流で収穫したサツマイモを焼き芋にして参加者全員に振る舞った。アツアツでホクホクの非常に甘くて美味しい焼き芋だった。

8区3班で班会合

どこもかしこも、新型コロナウイルス感染症対策で自粛自粛の毎日であるが、8区3班では取りやめた「芋の子会」の代わりに、農区班長である高田竈家に集まって11月7日に班会合を行った。例年の芋の子会は、紫波町のホテルで開いていたそうだが、コロナ禍の為に今年になって初めての班会合とあって感染対策をしながら9名が集まり、次年度の班周りの役員などを決めた。板垣ケイ子さんは「久しぶりに近所の方々と会って元気な顔を見ることができて安心しました」と話していた。

大瀬川初の猪を捕獲

11月6日に花巻市が設置していた猪罠で大瀬川では初の捕獲に成功した。場所は北田家（辻村康幸さん宅）の屋敷裏。前日に、ビニール袋に入れて置いた粃殻がさんざん荒らされたので市に通報して仕掛けた罠だった。
 今年も大瀬川地内に何回も猪用の籠罠を仕掛けたがどれも空

振りに終わっていた。
 今回はワイヤーを使う紐縄に掛かかったもので、辻村さん宅では粃殻のみならず、自宅脇の畦畔もことごとく荒らされ、水漏れなどで困っていた。
 岩手日報によると、県内の猪は、江戸時代末期に捕獲したのが最後で、以来150年間目撃が無かったが、平成19年に奥州市で目撃、平成23年には県内始めて一関市で捕獲している。
 花巻市でも平成26年に初めて目撃され、大瀬川での初確認は、平成28年7月28日に菅原富久夫（河原家・7区）さんで、尾平の舗装道路で猪の成獣を目撃している。以来現在まで幾度も籠罠を仕掛けたが何れも失敗続きであった。

表	彰 （敬称略）
花巻市老連会長表彰	菅原新一郎

異例となった全戸訪問

昨年から12月初めになった交通安全協会大瀬川分会（板垣吉彦分会長）の飲酒運転撲滅全戸訪問が6日に行われた。
 11月に花巻市からも新型コロナウイルス感染者が出たため、当日は、三密防止の観点から石鳥谷交番職員をはじめとした関係団体の協力と出発式を取りやめとし、安協理事のみでの大瀬川地内全戸訪問を行った。今年も、「飲んだら絶対運転をやめよう!」や防犯協会のカラーチラシとミニボックススティシュを約180世帯へ14班に分かれ各家々を訪問し啓発した。

9区で班祝い開催できず

例年9区では11月中旬に、各班で来年の各種役員を選出後に、班長主催の「班祝い」を開催しているが、今年はコロナ禍で、2班は14日、1班・3班は15日午前と午後それぞれ各種役員選出のみを行った。

訃報

的場家の畠山カヅコさんは、11月20日に88歳で亡くなられました。畠山さんは、花巻市北湯口の出身で昭和29年に的場家に嫁がれてから、懸命に働かれた方でした。と言うのも、畠山さんが嫁がれる前からご主人の畠山彌一さんは、南部杜氏として冬期間は勿論、杜氏となった昭和38年からは夏場も蔵に出入りしてしまっていたので、その分も働かれた方でした。ご主人が、日本醸造協会会長から表彰を授かったのも、畠山さんの内助の功の賜物でもありました。
 畠山さんは踊りが趣味で、特に南部よしやれ節は評判でしたので、今頃は踊り仲間の畠山三千代さんや畠山貞子さん達と話が弾んでいるかも知れません。
 大瀬川婦人協議会教養文化部副部長なども担われて、地区にも貢献されました畠山さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。